



## 交通事故『0』に向けた職場づくり

アラコ株式会社  
品質管理部 品質統括室  
GEARサークル  
小椋 恵里子

活動期間 2024年4月～9月

事業内容

■シート（組立）  
■シートカバー（縫製）

企業理念

「世界に愛される製品づくり」を追求し、お客様から信頼され、期待され、必要とされ続ける会社

社是

「力×3」で、多くの力を集めて一本に合わせ助け合い「夢」を叶わせる成し遂げるエネルギー

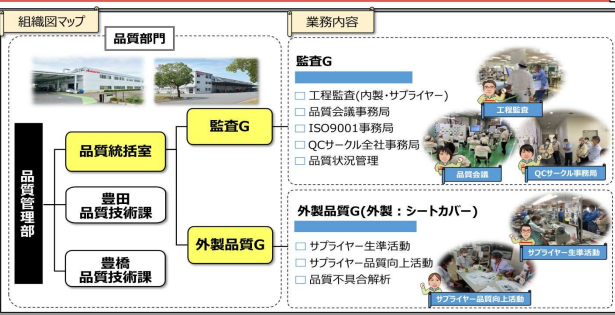
ARACO トヨタ紡織グループのシートサプライヤー

アラコ株式会社「GEARサークル」の小椋です。  
私たちGEARサークルは「交通事故0に向けた職場づくり」のテーマに取り組んで来ました。

当社アラコはトヨタ紡織グループの一員として自動車内装品の生産をしており、シート組立、シートカバー縫製を行っております。  
当社は、世界に愛される製品づくりを追求し、お客様から信頼され、期待され、必要とされ続ける会社を会社理念としております。



私達の生産拠点は、愛知県内に5工場ございます。  
私の所属する東栄工場ではランドクルーザー300やレクサスLX600の自動車シートを生産しております。  
また、県外、海外も含め12社のサプライヤーと取引をしており、レクサス、ランドクルーザーをはじめとする御覧のような車種のシート・シートカバーの生産に携わっております。

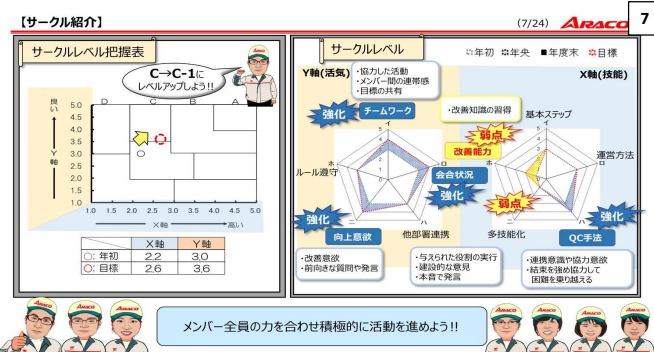


私たちGEARサークルのメンバーは、品質管理部の品質統括室に所属しています。  
監査Gは工程監査や品質会議の運営、  
外製品質Gはサプライヤーの生産活動や品質向上活動業務を担当しています。

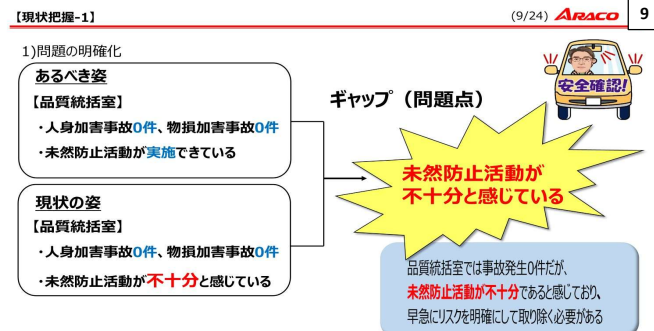
| Q C サークル紹介 | サークル名（フリガナ）           |           | 発表形式             |
|------------|-----------------------|-----------|------------------|
|            | GEARサークル（ギア）          |           | プロジェクト           |
| 本部登録番号     |                       |           | 2021年 4月         |
| メンバー構成     | 7 名                   |           | 会合は就業時間（内）・外・両方  |
| 平均年齢       | 42 歳（最高 63 歳、最低 23 歳） |           | 月あたりの会合回数 平均 2 回 |
| テーマ暦       | 本テーマで 6 件目            | 社外発表 2 件目 | 1 回あたりの会合時間 1 時間 |
| 本テーマの活動期間  | 2024年 4月 ～ 2024年 9月   |           | 本テーマの会合回数 12 回   |
| 発表者の所属     | 東栄工場                  |           | 勤続 24 年          |



GEARは日本語にすると「歯車」ですが、私たちサークルメンバー一人一人の歯車をかみ合わせ会社の成長のために改善に取り組んでいこうという思いが込められています。メンバーは23歳～63歳と年齢幅はありますがサークルスローガンの元気に、笑顔で、明るく、ルンルンの通り、個性を活かして上手にコミュニケーションを図っている、元気で笑顔あふれるサークルです。

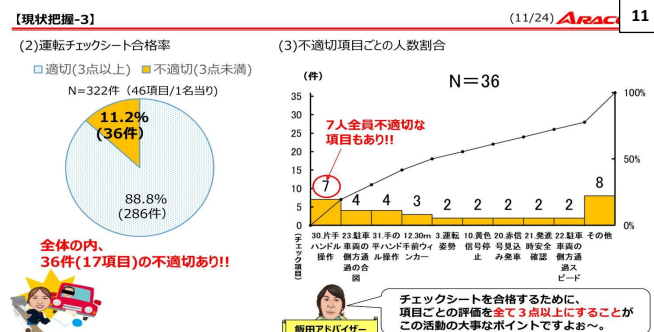
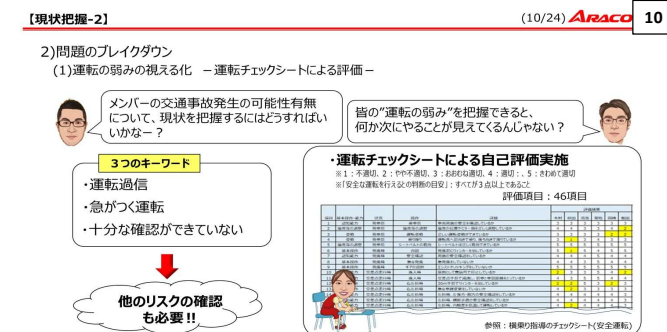


上期活動開始時のサークルレベルは、「C」ランクでしたが、「C-1」ランクを目指して活動を開始しました。弱点は、X軸の「多技能化」と「改善能力」。今回は「改善能力」をアップできるように力を入れて活動してきました。また、X軸の「QC手法」、Y軸の「チームワーク」「向上意欲」「会合状況」のレベルアップを図っていくように活動を進めました。



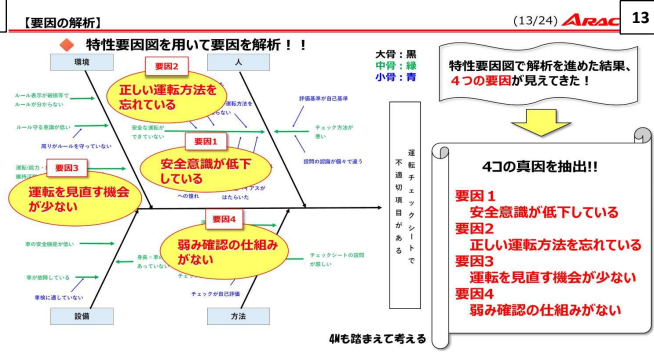
テーマ選定では、室方針を基に自職場の課題、困り事について話し合いを行いました。問題・課題リストをマトリックス図法で評価した結果、『社内での交通事故が増えているが品質統括室は大丈夫なのか?』という意見が総合評価点で最も高く、品質統括室は業務の中でサプライヤーが遠隔地にある為、車での移動が多く「交通事故のリスク」が大きいことが懸念事項となっていました。以上の理由から、このテーマを選びました。

現状把握ではまず始めに、問題の明確化を行いました。あるべき姿と現状の姿とのギャップを確認した結果、あるべき姿「人身事故、物損事故ともに0件、未然防止活動が実施できている」に対し未然防止活動が自分たちの職場では不十分であることがギャップでありました。交通事故未然防止のために、早急に改善が必要であると意見があげられました。



問題のブレクダウンでは、当初、品質管理部で発生した2件の交通事故の原因である、「運転過信」「急がず運転」「十分な確認ができていない」の3つのキーワードが挙がりました。この3つの遵守状況を確認する方法を検討しましたが、この3つだけでなく他のリスクについても確認する必要があると判断しました。早速、インターネットで適切な運転チェックシートを入手し、運転の自己評価を行いました。

評価は5段階評価で、すべての項目が3点以上であれば「安全な運転を行える」と評価できます。評価結果は、チェックシート全322件の問いに対し、3点未満の不適切項目が36件ありました。パレート図を見ると、7人全員が不適切な項目もあることが分かりました。飯田アドバイザーから「項目ごとの評価を全て3点以上にすることが大事なポイントだよ」と助言を頂きました。



目標の設定では、運転チェックシートで判明した不適切項目について、6月時点で36件の不適切項目を、8月末までに0件にするという目標をたて活動に取り組みました。活動計画は御覧のような計画を作成し、4月から8月末までこの計画に沿って取組みました。

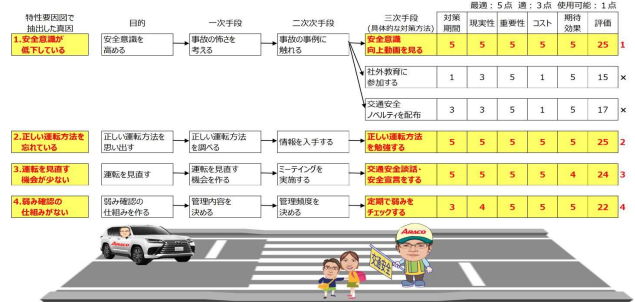
次に、要因の解析を「特性要因図」を使って進めました。その結果、4つの要因が見えてきました。1.安全意識が低下している 2.正しい運転方法を忘れている 3.運転を見直す機会が少ない 4.弱み確認の仕組みがない以上の4つが要因としてありました。



| 要因              | アンケート結果<br>(5点満点) | コメント                    | 対策要否 |
|-----------------|-------------------|-------------------------|------|
| 1.安全意識が低下している   | 平均2.5点            | 安全意識の低下を感じている           | 必要   |
| 2.正しい運転方法を忘れていた | 平均3.0点            | 7名全員正しい運転方法を忘れていた       | 必要   |
| 3.運転を見直す機会が少ない  | 平均2.4点            | 運転を見直す機会が少ないと感じている      | 必要   |
| 4.弱み確認の仕組みがない   | 平均2.7点            | 自分の運転の弱みを把握できていないと感じている | 必要   |

4つの項目全て問題であり、全てに対処策が必要であると判断しました

4つの要因を調査するため、アンケートを実施。5点満点評価の結果はごらんの様になりました。  
 1.安全意識の低下は2.5点で、安全意識の低下が感じられました。  
 2.正しい運転方法は3.0点で、正しい運転方法を7人全員忘れていました。  
 3.運転を見直す機会について、平均2.4点で頻度が少ないと感じていました。  
 4.弱み確認の仕組みは、平均2.7点で自分の弱みを把握できていないと感じられていました。  
 以上の結果から、4つの項目全て問題であり、対策が必要であると判断しました。



対策の検討では、  
 4つの真因を取り除くために、系統図法とマトリックス図を用いて検討しました。  
 その結果、点数が高い4項目に対処策することにしました。

## 対策案の実施…No.1

| 問題点           | 内容            | 対策                                    |
|---------------|---------------|---------------------------------------|
| 1.安全意識が低下している | 1)安全意識向上動画を見る | (1)KYミーティングで「慣れた日々」を経験<br><b>交通犯罪</b> |

次に対策案の実施方法を検討しました。  
 対策1では、安全意識向上のための動画を視聴し「命の大切さ、事故により被害者、加害者ともに人生が大きく変わってしまう」ことをメンバー全員で共有しました。  
 また、対策検討で評価×となっていた、「交通安全ノベルティ」を総務室に提案すると、良いアイデアだと賛同をもらい、全従業員にノベルティを配布してもらうことができました。

## 対策案の実施…No.2

| 問題点             | 内容             | 対策                                     |
|-----------------|----------------|----------------------------------------|
| 2.正しい運転方法を忘れていた | 2)正しい運転方法を勉強する | (1)教習所の教本で再勉強<br>(2)弱点対象者から担当を決め勉強会を実施 |

対策2では、正しい運転方法を勉強しました。  
 メンバーが持っていた運転免許更新時の教本と、免許取得時の教本を使って勉強会を開催しました。  
 弱点対象者を報告担当にして、正しいルール・そのルールを守らないとどうなるのかを「自分の言葉」で報告しました。

## 対策案の実施…No.3,4

| 問題点            | 内容                                         | 対策                    |
|----------------|--------------------------------------------|-----------------------|
| 3.運転を見直す機会が少ない | 3)交通安全談話・安全宣言をする                           | (1)KYミーティングで各自の安全宣言実施 |
| 4.弱み確認の仕組みがない  | 4)運転チェックシートでチェック実施<br>…詳細は「9.標準化と管理の定着」に記載 | (1)運転チェックシートでチェック実施   |

対策3では、交通安全談話・安全宣言をしました。  
 開催したKYミーティングで、メンバー全員から動画を視聴した感想を発言してもらいました。  
 また、自分はこういった点に気をつけて運転するのかメンバー一人一人、安全宣言を行いました。  
 対策4では、今回入手した運転チェックシートを使用して定期的に点検を行います。

| 要因              | アンケート結果<br>(5点満点) |                   | コメント                   |
|-----------------|-------------------|-------------------|------------------------|
|                 | 対策前               | 対策後               |                        |
| 1.安全意識が低下している   | 平均2.5点            | 平均4.4点<br>(↑1.9点) | 安全意識を向上できた             |
| 2.正しい運転方法を忘れていた | 平均3.0点            | 平均5.0点<br>(↑2.0点) | 7名全員正しい運転方法を思い出すことができた |
| 3.運転を見直す機会が少ない  | 平均2.4点            | 平均4.4点<br>(↑2.0点) | 運転を見直す機会を作ることができた      |
| 4.弱み確認の仕組みがない   | 平均2.7点            | 平均4.1点<br>(↑1.4点) | 自分の運転の弱みを把握することができた    |

1~4の対策を実施後、再度メンバー全員にアンケートをとりました。その結果、  
 1.安全意識は平均4.4点となり、1.9ポイント上昇しました。  
 2.正しい運転方法は平均5.0点となり全員正しい運転を思い出す事ができました。  
 3.運転を見直す機会の評価は、2.0ポイント上昇。  
 4.弱み確認の仕組みの評価は1.4ポイント上昇し、自分の弱みを把握し改善につなげることができるようになりました。

## 対策後、再評価(自己評価)!!

## 運転チェックシートの評価不適切件数

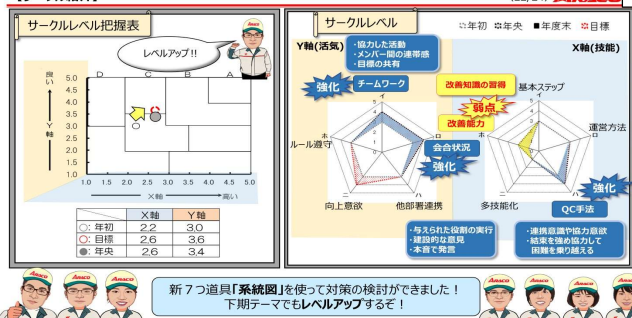


運転チェックシートで再度自己評価をした結果、  
 活動前6月に不適切項目が36件ありましたが、  
 活動後8月末には、メンバー全員「0件」にすることができ、  
 目標を達成することができました。

|   | 何を          | 誰が      | 何で        | いつ          | どこで   | どうする       |
|---|-------------|---------|-----------|-------------|-------|------------|
| 1 | 安全運転状況      | 品質統括室担当 | 運転チェックシート | 1回/年(4月)配属時 | 社内で   | チェックを実施する  |
| 2 | 安全意識向上ビデオ   | 品質統括室担当 | KYミーティング  | 1回/月        | 自部署内で | 鑑賞し意識向上を図る |
| 3 | 交通安全談話・安全宣言 | 品質統括室担当 | KYミーティング  | 1回/月        | 自部署内で | 行い意識向上を図る  |



標準化と管理の定着として、  
 1.安全運転状況を年、1回(4月)もしくは配属時にチェックを実施。  
 2.安全意識向上ビデオを月、1回のKYミーティングで視聴し安全意識の向上を図っていきます。  
 3.交通安全談話・安全宣言を月、1回のKYミーティングで実施します。



今回の活動で、サークルレベルは、目標のC-1ランクまでは届きませんでしたが、X軸、Y軸共に0.4ポイントアップでき、今回の改善活動を進めることで、弱点だった改善知識をレベルアップさせることができました。また、強化項目であったチームワーク・会合状況・QC手法も向上させることができました。今後の活動では、さらに向上意欲を高め、前向きな発言が活発にできるような活動をしていきたいと思っています。



我が社は2024年に創立50周年を迎えることが出来ました。  
私達、GEARサークルも歩みを止めることなく“さらなる未来へ向けて挑戦”していきます。  
以上で、GEARサークルの発表を終わらせて頂きます。

## 良かった点

- ・QC活動が新人育成とコミュニケーション強化の場として機能
- ・7月以降は毎週開催に切替え、最後まで完遂

## 反省と今後の進め方

- ・安全運転改善の進め方に迷い、ブレイクダウンと目標設定に時間を要した
- ・今後はメンバー全員で協力し、個々のレベルアップと新たな課題解決に取り組む



最後に、良かった点は、新人教育の場としてQC活動を活用できたこと、7月中旬以降に遅れを挽回するために毎週の会合に変更し、最後までやり切ることができたことです。反省点としては、活動当初は安全運転の改善取り組みを何をやれば良いのか戸惑いブレイクダウンをスムーズに進めることができませんでした。今後は、メンバー個々のレベルアップを目指し、新たな問題に対しても全員で協力して解決していきます。